

どきどき歴史キャンプ！

■ 事業のねらい

サロマ湖沿岸の町常呂町の歴史、文化や先人の知恵を学び、地元地域への関心を深め、古代に生きた人々へ思いを馳せながら、地域への愛着や誇りを育む。



■ 実施日 平成23年7月29日(金)～31日(日) 2泊3日

■ 参加対象 小学校4年生～中学生 20名

■ 参加実績 参加者：10名

小4＝2名、小5＝1名 小6＝6名 中1＝1名

男子＝6名、女子＝4名

(大学生ボランティア男子＝1名)

■ 備考 共 催：ところ遺跡の森

講師：武田 修（ところ遺跡の森 所長）

活動場所：常呂少年自然の家 ところ遺跡の森

1 事業実施の背景

北見市常呂町は、約4000年前からの遺跡を数多く有する町であり、平成2年に史跡常呂遺跡として指定も受け、考古学的にも貴重な地域である。しかし、そういった歴史・文化を単に史実として学ぶことは容易だが、体験活動を通じて当時の人々の文化や価値観に触れる学習機会はそう多くはないと思われる。

当事業では、体験活動を通じ、子どもたちが古代人の生活や文化、価値観に実際に触れながら学習を進め、現代人の生活を振り返り、気付きを促し、地元地域に対して持つ愛着や価値を深めることを目的とした。

2 プログラムデザイン

| | | 6:30 | 7:30 | 8:30 | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | 19:00 | 20:00 | 21:00 | 22:00 | |
|---------|----|------|------|---------|------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 7/29(金) | | | | | | | | | 受付 | ①貫頭衣作り | | | 休憩 | 夕食 | ナイト | 就寝 | | 就寝 | |
| 1日目 | | | | | | | | | 説明 | ②勾玉づくり | | | | | ハイク | 準備 | | | |
| 30(土) | 就寝 | 起床 | 朝食 | ①竪穴住居見学 | | | 昼食 | 遺跡 | 宿泊 | 石器を使って夕食づくり～ | | | | 入浴 | 竪穴住居へ | | 就寝 | | |
| 2日目 | | | | ②遺跡発掘作業 | | | | 洗浄 | 準備 | 夕食(野外炊事) | | | | | 夜話 | | | | |
| 31(日) | 就寝 | 起床 | 朝食 | 振り返り | | | 解散 | | | | | | | | | | | | |
| 3日目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■ アクティビティについて



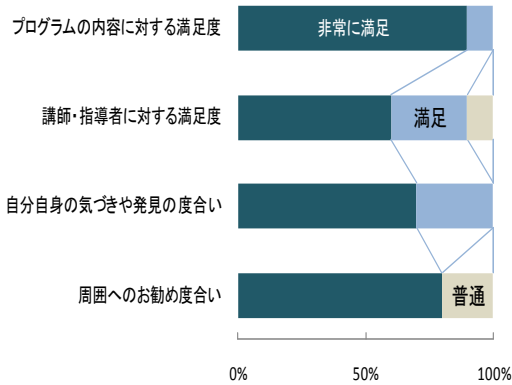
■ 意図

- 古代縄文人の生活様式を可能な限り再現し、体験活動を通じて当時の人々の生活の知恵や文化的価値観を体感させ、先人への畏敬の念を持たせる。
- 歴史・文化に対する興味・関心を高め、より一層深い愛着や誇りを持って地元地域での生活を見つめ直す契機とさせる。
- 自然の家の活動を通じて、集団生活における協調性や相手を思いやる気持ちなども育み、生活力を高める。

■ 留意事項

- 遺跡発掘活動や、復元竪穴住居での宿泊など、野外(自然の家敷地外)をフィールドとする場面が多く、また、内容も特殊な活動になるため、健康・安全面の配慮を徹底する。

3 活動の様子



■ 当日の様子

1 日目、武田修氏（埋蔵文化センター所長）の指導の下、子どもたちは、古代縄文人が身に付けていた貫頭衣を模した衣服と、勾玉を製作した。活動期間中は実際にそれらを必ず身に付け、見た目も気持ちも縄文人と同じになることを約束し、活動へのモチベーションを高めた。予定していたナイトハイクは雨のため中止となり、代わりに指導者からの説話で、集団生活に対する意識を高めた。

2 日目、午前中は、常呂川沿いの遺跡発掘現場へバスで移動して発掘作業を体験した。子どもたちは、武田氏の鑑定を受けながら次々に遺物を発掘、驚きと喜びの歓声を上げた。石器や縄文土器片を100個ほど発掘し、数千年前の生活の跡を目の当たりにした。午後からは、発掘した遺物の洗浄を行い、武田氏の解説を聞きながら縄文人の知恵と技術に深い関心を寄せた。

夕食のカレーライス作りでは、本物の石器を使って野菜や肉を切り、仲間と切れ味を評価しながら楽しく夕食づくりを行った。入浴後、遺跡の森へ移動。復元竪穴式住居内にブルーシートを敷き、寝袋を持ち込んで就寝準備。囲炉裏を囲んで、武田氏からの夜話に聞き入った。「縄文人は殺し合いをしなかった」と、古代縄文人の死生観に関する話で、子どもたちは遠い古代の人々の生活や文化に思いを馳せた。その後就寝。普段の生活に比べ過酷な条件の竪穴式住居宿泊だが、ぐっすり眠りについた。

3 日目、自然の家に戻り、2 日間の活動を振り返って各々の感想を発表しあった。子どもたちは、自分たちがなした体験活動に満足したようで、今回の経験を、今後の学習や生活に役立てていこうと決意し、全日程を終了した。

■ 参加者の声（アンケートから抜粋）

- すごくたくさんの土器が見つかって、ここにはたくさんの人たちがいたんだと思いました。（小5）
- 縄文時代の人たちの悩みや優しさ、そして残したものの大切さを知りました。この「歴史キャンプ」で学んだことを現代での生活に生かしていきたいです。（小6）
- 縄文人の大変さや心の優しさがわかりました。友達もできてよかったです。（小6）

4 事業評価



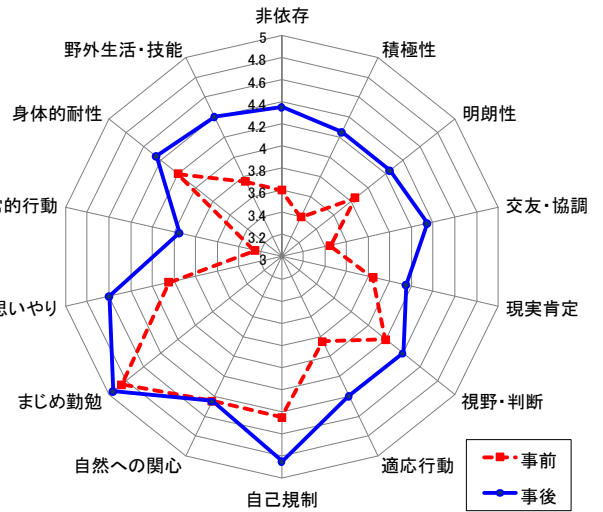
■ 参加者の変容【IKR調査結果】

評価項目全体で0.47ポイントの向上がみられた。最も向上した項目は「交友・協調」であり0.9ポイントの向上が示された。そのほか、「積極性」0.85ポイント、「非依存」0.75ポイント、「日常的行動」0.7ポイント、「野外活動・技能」0.65ポイント、「適応行動」0.55ポイントなどが、全体平均値よりも高く、向上を示した。反面「自然への関心」は変容が見られなかった。

■ 結果の分析・考察

本事業は「地域の歴史・文化を学ぼう」ということが主眼であるため、直接関連付けることができる調査項目はない。しかしながら、自然の家での自主的な集団生活を日常的行動通じた宿泊体験活動であったことから、「交友・強調」「積極性」「非依存」「日常的行動」の向上という結果が得られたと考える。また、子どもたちにとって厳しい条件での宿泊体験を乗り切ったことが自信につながり「野外活動・技能」を高めたと考えられる。

「自然への関心」は、唯一変化が見られなかった。



5 まとめ



■ 成果

- 縄文人の衣服や身に付ける装飾品、そして生活様式までを模倣し、古代の歴史・文化を体験として学んだことから、歴史・文化に対する関心を高めることができた。そして、現代における自らの生活を振り返ることができた。
- 集団での活動や宿泊生活を通じて、協調性や積極性、自主性などを向上することができた。また、竪穴式住居でのキャンプを経験したことにより、野外生活における自信をつけさせることができた。

■ 課題・今後の方向性

- 「ところ遺跡の森」との共催事業として行い、「ところ遺跡の館」や「埋蔵文化財センター」など、地域の教育施設を活用した。今後も教育的効果を一層高めるべく、地域の関係機関と連携・協力し、地域の歴史的財産と自然を活用した魅力的なプログラムの提供を目指したい。